

七月十日

十時研究室。十時半池上、伊藤さん来室。打合わせ。十二時迄。昼食、野菜ソバ。このところ暑さに負けてソバばかりだ。雑事を少し計り。十六時過研究室発。その間、藤森昭信の本読む。エクスナレッジのイサム・ノグチ生誕百周年特集も読む。これにも藤森が丹下健三とノグチに関して書いている。藤森の兄弟筋の赤瀬川源平さんも書いている。何だか、同じようなところに着目しているようで感じ悪い。要するに、イサム・ノグチの庭園美術館は未知の領域のニューアンスが内在しているのに、二人共気付いている。こういう事に気付いているのは自分だけという喜びが少し傷つけられて、残念であるが、マ、仕方ないだろう。マル族の記憶と称して、私がイサム&B・フラールについて書いた中枢は、イサムもフラールも丸い頭をしていて彼等の仕事は謂わゆる画家達の自画像の連続だったという事。マル族はブレ・モダーンの総合性とポスト・モダーンの未知の可能性の双方を混濁させている、カオスを持つという事であった。又、イサム家の前の「マル」と呼ばれる地藏さんの居る古代的场所の創造に於いて、それを藤森は時間と存在と、シンブルに呼ぶのだが、その「マル」の創造によってイサムはB・フラールの成し遂げ得なかった領域を創出したという事。「マル」には古代的なニューアンスが横溢しているという事。王権や神によらないアイコンの複合か。創造という事が、歴史家の手付、物腰と極めて接近している世界の可能性が表されている事。

それ等を指摘したのだが、藤森、赤瀬川義兄弟組は、その事にどうやら気付いているようなのがはなはだ気分悪いのであった。十七時過、世田谷村に戻る。銅版画をすすめた。十九時半、烏山の中華料理屋で家内と夕食。二十一時家に戻る。マア、こんな風にだらしな生活を一年位続けさせてもらえれば、エネルギーは再びたまるだろうと思うが、今迄こんなに休んだ事がないから、その度胸があるがチョツと自分でも心配だ。六〇才になって本格的な休息をとるのは、本格的な不安も又、ともなうのだが、マア、自然でもあるのだろう。

七月十一日 日曜日

五時半起床。玉ネギ、卵、ごはんの朝食。六時十五分下に降りる。石井が眠そうな顔で待っていた。六時三〇分友岡父子車で迎えに来る。出発。首都高速を走り東北道を一路、一ノ関へ。途中、清秀君が運転中眠りそうな状態で、九時前宇都宮あたりで彼を仮眠させる。若いのは本当に良く眠くなるな。私はガキの頃、川合健二から超スパルタ教育されて、夜は眠っちゃ駄目。眠るのはイワシなの、なんて理屈にならないシゴキ方されているから、あまり眠くなったりはしない。学生というのは本当に弱い生物である。勉強なんかしないで、運動場で腕立て伏せ百回してた方が本当は良いのだ。今日はベ－シーで菅原に会い、次に古川で結城登美雄に会う予定なんである。今日は良い休日になるだろう。只今十時半過。福島西通過。友岡社長・清秀とアジアの手漉き紙によるテーブル・ウエアーその他の話をする。建築用に使う話は簡単なのだが、食器の方は仲々難しい。しかし、食器その他のマーケットの方がはるかに大きい。十二時半一ノ関ベ－シー着。菅原のすすめで富沢魚店の焼魚定食、大きなさばを食す。美味であっ

た。ベシーでひとときを過す。高橋さんと再会。フランク若

に決めた。

七月十二日

松をしのび、シナトラを聴き、あわただしくベシーを去り、再び東北自動車道を筑館で降りる。田野の中を走り、結城宅へ。十六時過、道端に立って待っていて下さった奥さんに導かれて、百姓になって初めての結城登美雄に再会。まん丸い顔がますます丸い、初々しい百姓姿が懐しかった。座敷に上り込み、話を聞く。三十一才の元教員の息子さんが主体の農家のような。登美雄さん、大いに語る。語り部百姓の趣あり、しかし、それが一向に嫌味ではない。話しが一段落したところで一町五反(一・五ha)のゆるい棚田状の畑を案内してくれた。トマト、ナス、インゲン、大豆、カボチャ、キュウリ、じゃがいも、他雑多な野菜を実験的に作っている。一町五反が二つに別れて、五反の田んぼは少し計り離れたところにある。その全てを住宅や納屋、作業所付で千五〇〇万円程で入手したのだという。田畑は一反、五〇万円で購入するそうだ。要するに日本に三百二〇万世帯の農家は毎年六万人づつ減少している。パチンコ、外食、サラ金が農村風景の背景にあるのだと言う。それで、そんな法外とも思える値段で田畑が手放されている。聞きしに勝る農村風景だな。三ヶ所の畑、田んぼを案内され、十八時過結城宅に戻り、食事をふるまわれる。じゃがいもがおいしかった。ベシーに戻るのを断念して、菅原に電話。申し訳ないが、今夜は結城登美雄と語り合つのが筋だと判断。二〇時頃、友岡父子、石井明日の地鎮祭のために猪苗代に発つ。私は結城宅にとどまる。ここに来るのは結構大変だな。結城におおいに教えられ二十二時過一段落。家族とTVで参院選の経過などをみているうちに、結城、自然に寝てしまう。私も二十二時半、座敷に床をのべていただいて休む。涼しくて、蚊もおらず、グツグツと眠りに落ちた。室内の連載は結城、百姓になるを書くこと

四時半目覚めてトイレへ。六時迄再び眠る。ベシーと百姓生活の結城とを昨日は渡り歩いた、変な一日であったが、深く刺激された一日であった。六時より、結城に再び話を聞く。ロシアのダーチャの事、結城の新農村構想について。これに関しては早いうちに絵にして、結城に送る事とする。川合健二の農園計画、沖縄の自給自足、ロシアのダーチャ、若者のプーターロー現象等が頭の中でグルグル廻り始める。七時半、朝食。卵の目玉焼、ハム、味噌汁、魚など盛り沢山。選挙の結果をTVで見ると。八時半、再び農機具などを見学。四〇分、夫人に車で古川まで送っていただく。道々、夫人が色々な話をしてくれたのが実に印象的であった。女性の話しは、足が地に着いている。だからと言って男達の話しが宙に浮いていると言うのではない。視点が驚く程に違うのだ。九時過古川駅着。夫人にお別れを言つて、九時三十五分のやまびこで東京へ。百姓になるうとして、行動に移した結城家を訪ね、ここで東京へ。百姓になるうとして、行動に移した結城家を訪ね、良く学んだ二日だった。十二時東京着。駅構内のレストランで昼食。ざるラーメン。貧しい食文化です、我ながら。毎日の食事と結城さんの百姓暮らしは結びついているのだが、さりとて、どうすれば良いのか。十三時小田急線喜多見駅、十三時半高山邸地鎮祭。十五時境界のフェンスの件等で建売業者と少し強面の打合わせ。十六時修了。狛江より電車を乗り継ぎ南町田へ。なんとも東京周辺は動くのに気を使うな。しかし、東京は実感として白い廃墟だな。十七時十五分南町田。古木理事長に迎えられて、いつものテニス・クラブへ。森の学校、最終打合わせ。何とかプランはまともまりそうだが、まだまだ。十九時半終了。じゃがいもとトマトを

もらって帰る。只今二〇時十五分田園都市線溝ノ口を通過。何だか疲れた。二十一時半世田谷村に戻る。